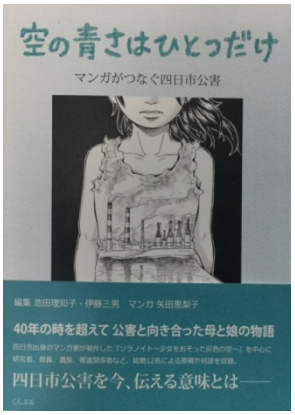
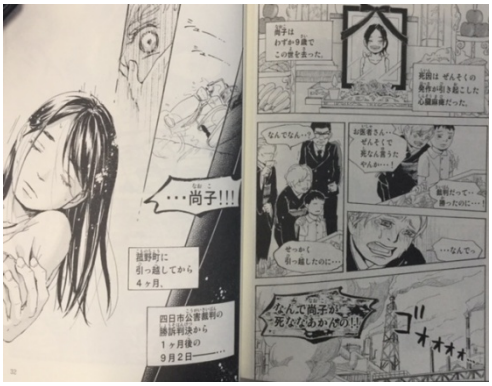
空の青さはひとつだけ

本書はたまたま、澤井余志郎さんを偲ぶ「一周忌」の集いで手にした。副題「マンガでつなぐ四日市公害」、今年７月に「くんぷる」から初版発行。



めったにマンガは読まないが、四日市公害マンガ「ソラノイト～少女をおそった灰色の空」を読んで、わずか９歳でこの世を去った谷田尚子さんとつながった。四日市公害などをマンガでつなぐ大切さも理解できた。マンガの作者は、四日市在住の漫画家矢田恵梨子さん。

本書はマンガだけでなく、「マンガでつながる人たち」「四日市公害がつなぐ世界」「公害と私たちをつなぐイト」といった対談や論稿が掲載され、読みごたえがある。



マンガの主人公、谷田尚子さんの母・輝子さんの「尚子ちゃんが残してくれたもの」の一部だけ紹介したい。

「尚子は不思議な子。尚子は家族に悲しみを与えたけど、光も与えてくれて。あの子がいなかったら、私は普通のおばあさんで人生終わっていくはずだった。悲しい思いをせんでもよかったかわりに、平凡に終わっていくんだったけど。あの子がこうやって言うてほしいって言ってるんと違うかなあ。

おかあちゃんしゃべりなさい、ママしゃべりなさいって言っていると思うね。自分は亡くなったけど。あの子のことやから、いっぱいいるよって、知らないところにいっぱい(自分みたいな子)がいるよっていうことを言っていると思うのね。」

話をする谷田輝子さん

谷田さんは「集い」でも、尚子さんのことも語られた。そのときは尚子さんのことを知らなかった。「集い」が終わってから、私の拙い発言に「ありがとう」と頭を下げられた。こうして、谷田尚子さん、お母さんの輝子さんとも、マンガを通じてつながることができた。

（2016 年 12 月 22 日）